

植物公園 花ものがたり

第四話 アマ



昨年の初夏、園内の花壇の手入れをしていたところ、「まあ懐かしい。アマよ、アマ」と声を挙げる方がいました。北海道から来た方で、以前農産物として栽培しており、久しぶりにアマを見かけたため、喜びのあまり思わず声が出してしまったとのことでした。

アマ科アマ属で英名をフラックス、和名を亜麻といい、中央アジアやアラビアが原産です。花が咲き終わるとできる種子(仁)には脂分が多く、搾ると黄色の亜麻仁油がとれます。工芸用利用されるほか、動脈硬化などの予防に効果があるとされるα-リノレン酸を多く含むことから、健康食品としても注目されています。

種を収穫した後、茎の繊維を紡いだのが亜麻糸で、織物のリネンの原料になります。リネンは丈夫で肌触りの良い上質な素材のため、高級衣類に使われています。古代エジプトでは、ミイラを包む布としても使用されていました。茎の繊維の色は亜麻色といわれ、「亜麻色の髪」のように、金髪や黄みを帯びた茶色の髪を形容する際に使われて

います。

さまざまな用途に利用できるアマですが、私がお勧めしたいのは、花の素朴な美しさです。4月に水戸 養命酒薬用ハーブ園の看板前に植えたアマは、園芸種のブルードレス。繊細な茎の先に咲いた水色の花が風で揺れると、ブルーのドレスで踊る少女のように見えないかしら。そんなことを思いながら植えた苗も、ようやく花が咲いてきました。栽培のポイントは、光不足だと株ごと倒れてしまうので、日当たりの良い場所で育てることです。

美しい花ですが、力強く成長することから魔除けの効果があるといわれています。古くは庭の戸口に植えたそうですので、魔除けと思って栽培するのも良いかもしれません。

花言葉の一つに「あなたの親切に感謝します」があります。太古の昔から私たちの暮らしを豊かにしてくれているアマこそ、人々から感謝されるべき花といえるかもしれません。

水戸市植物公園園長 西川 綾子



水戸 養命酒薬用ハーブ園看板前のアマ